

---

---

## 『経理研究』第62号の刊行にあたって

中央大学経理研究所  
所長 石川鉄郎

『経理研究』は、中央大学経理研究所が発行している機関誌であり、会計および関連分野の専門的な論文や研究成果を掲載する研究誌の役割を果たしている。従来、『経理研究』は毎年発行されていたが、諸般の事情により第59号からは隔年発行となり、現在に至っている。今回の『経理研究』第62号は、前回2020年（令和2年）に刊行された第61号に引き続き、隔年で刊行されるものである。

『経理研究』の刊行は、簿記検定試験や公認会計士試験などの資格試験の受験を目指す学生を対象とするキャリア支援教育の実施、知の社会還元をねらいとする社会人向け教育講座の開講とともに、経理研究所が取り組む事業活動の柱の1つとなっている。しかし、現在、経理研究所には独自の研究組織は存在していない。また、研究会の開催など専門的な研究活動を日常的に行っているわけでもない。そのため、『経理研究』の刊行にあたっては、そのつど編集方針を定め、その中で特集テーマの選定および自由論題を含む執筆依頼者の決定を行っている。

今回の『経理研究』第62号の編集にあたっては、経理研究所は中央大学が設置している学内組織であるという点に鑑み、中央大学学内の教育・研究組織（学部・大学院）に所属し、会計および関連分野の教育・研究に従事している先生方全員に広く執筆を依頼するという基本方針を採用した。特集テーマについては、学内外を問わず、適任と思われる執筆者に依頼するのはむしろ当然のことであるが、自由論題についてはまずは学内関係者全員に幅広く執筆を依頼するのが自然であり、基本である。執筆者の決定についてそのような基本方針に立ち返ることが、『経理研究』の発行にとって適切であり、ふさわしいことである。

『経理研究』第62号では、「会計研究の課題と方法」を特集テーマとした。これは、近年、会計研究の専門化・多様化が著しく進展し、また会計実務や会計教育との関係も従来に比して重層的で複雑化していることを念頭においたものである。上述したように、特集テーマについては、学内外を問わず、そのテーマに適任であると思われる執筆者に依頼することが考えられるが、今回の特集テーマについては学内に適任と思われる複数の執筆者が揃っていたことから、結果的に執筆者全員が学内の専任教員ということになった。

最後に、末筆ながら、『経理研究』第62号の刊行にあたり、原稿執筆を快くお引き受けいただいた先生方に対して、また、刊行に向けてご尽力いただいたすべての関係者の

皆様に対して、衷心より感謝を申し上げ、発行責任者からのご挨拶とする次第である。

2022年（令和4年）8月吉日